

第 43 号

バドミントン しずおか

発行 平成 26 年 1 月 30 日 発行所 静岡県バドミントン協会 編集者・印刷 広報委員会



あいさつ
静岡県バドミントン協会
会長 石川 博義

新年明けましておめでとうございます。
2014年の年頭にあたり会員の皆様のこの
一年のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上
げます。

昨年は全国中学校バドミントン大会も皆様の絶大なるご協力により無事終了いたしました。一昨年の全小と昨年の全中この二つの大会を開催して思うことは、ジュニアの養成が重要であることを痛感しています。

2020年東京オリンピック開催が決定いたしました。この機に静岡県からバドミントンのオリンピック選手を出したいと思えます。新年にあたりこんな夢を持つことも楽しいではありませんか。そのために、ゴールデンエイジと呼ばれるジュニア養成が急務となります。6年後の彼らの活躍を思うとき、環境の整備・指導者の養成・選手強化が必要となりますが、どの分野を見ても静岡県は多難であります。すべて一朝一夕にできるものではありません。環境の整備は、選手はどうしても日常の練習が重要になって来ますが、指導者を含め整って居ません。



学連の一層の飛躍を願って
静岡県バドミントン協会 副会長
静岡県学生バドミントン連盟
会長 齋藤 聡

新しい年を迎え皆様には健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。今から
22年前の平成 4 年に静岡県学生バドミントン連盟が産声を上げました。

それは当時協会会長の故塩川甫先生のご尽力のおかげでした。初代会長を塩川先生にお願いし、平成12年度からは、現協会名誉会長の上野 忠先生に会長を務めて頂きました。平成21年より私が3代目の会長を引き継いでおります。この間、県協会のご協力とご援助の基、順調に発展して参りました。現在では、県内ほとんどの大学および学部部の部活が登録されており、春と秋の2回行われる団体戦と年度末開催の個人戦を主催し、県協会審判部の協力で年1回、審判講習会を開催しております。平成25年2月に開催された常任委員会の席上、当時浜松大学(現常葉大学浜松キャンパス)の松永君から学連の試合

特に小・中・高の一貫した活動環境が少ない。早急に指導者の配置・新部や新クラブの創設を図る必要があります。

指導者の養成も大切な分野です。現在、理事長を中心に全県にわたって養成講座を開いております。幸い多くの方々が参加をして頂き盛況であります。現在、コーチ・上級指導員・指導員を含め130名以上となっている状況です。この数は、全都道府県の中で五本の指に入る数であります。誠に頼もしいことでもあります。今後この指導者の活躍が期待される所です。

選手強化では、数々なかたちがありますが、日本バドミントン協会も小・中・高の一貫強化体制の下、予算を組み全国で展開しています。静岡県も1月11・12・13日ジャココ体育館で県下小・中・高のトップクラスの選手約30名が一堂に会して、伊東市出身で元全日本チャンピオンの片山卓哉氏を招待して3日間の強化合宿を実施しました。理学療法士でもある彼は身体の構造、動きから来る問題点を小学生は理解力を考慮して、印象に残ればいいものと、明確に覚えてもらうものを分けて指導する等、素晴らしい指導でした。最後に静岡県がバドミントンの強豪県に成ることを楽しみにしていると語ってくれました。今後も機会ある毎に強化合宿や遠征を組んで行けたらと思います。静岡県からオリンピック選手をと最初に述べましたが、それぞれが新年に当たり大きな夢を持って行って頂きたいと思えます。

数が少ないのでもっと試合数を増やして欲しいという提案があり、議論を重ねて、新しい試合を開く方向で決議されました。

その際、宮原副会長から冠大会にして学連会長杯としてはいかがかと提案がありました。私としても現在主催している団体戦と個人戦で年間に3試合では学連の目的である「静岡県における学生バドミントン競技の進捗と技術の向上に務め、併せて、会員相互の親睦と融和を図ること」に鑑み、その提案を受け入れることにしました。提案のあった浜松大学を中心に試合の計画をお願いすることとなりました。

会長杯は、団体戦でスチルマンカップという男女のシングル、男女のダブルス、ミックスダブルスという男女が一緒になった試合形式で行われました。新しい形式の試合で普段とは違った様子で各大学とも応援に非常に力が入り大会は非常に盛り上がりました。このように自分たちの現状から、新しい方向性を探って物事を実現していくことは、社会人として重要なスキルになると思います。この大会の成功は、この大会が学連の新しい顔として歩み始めたことを示しています。皆様には、今後とも学連の活動を温かく見守りいただき、学連が益々発展することを願っております。



県協会新年に当たり

静岡県バドミントン協会
理事長 杉山 敏充

明けましておめでとうございます。

昨年の夏、日本中が猛暑に見舞われたなかでの開催となった第43回全国中学校バドミントン大会（富士宮市民体育館）におきましては地元の皆様を始め県内多くの皆様から温かい励ましやご声援を頂き誠に有り難うございました。

当協会としても、中学校における全国大会の開催は初めてということもあり3年前の岡山大会からの視察に始まり大会成功に向けての準備に取り掛かりましたが、リハーサル大会を経て本大会の無事終了に至るまで競技運営全般に関わる数々のご支援ご協力を賜りました関係の皆様には厚くお礼申し上げます。

この大会では全国各地から参加して来られる選手や皆様を「おもてなしの心で出迎えよう」と関係中学校職員及び生徒の皆様は連携の輪を組んで大会の準備、運営に携わったと伺いましたが、そのきめ細やかな数々の心配りは大会成功の根幹を成した部分であり深く敬意を表する次第であります。

また、大会終了後は、県中学校体育連盟会長の大長 功様を始め大会実行委員会の佐藤隆夫会長（芝川中学校長）及び全中バドミントン事務局長の篠原尚紀先生（県中体連専門委員長）から本協会に対して丁寧なお礼のお言葉を頂戴致しましたが、関係の皆様にはこの場をお借りし改めてお伝え申し上げます。

さて、昨年はスポーツ界における明るい話題として6年後の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し日本国中が歓喜の渦に包まれたが、私達、スポーツに関わる人間としてこの上ない喜びと期待に胸弾む思いである。

開催の決定要因については、その招致活動において「おもてなし」の呼びかけが選考委員の共感を生み、決定のポイントとなったことは言うまでもありません。心を込めてお世話をするというこの「一言」は端的にして的確に人心をつかんだが、今後は一言なき確かな実行力が問われることとなります。

おそらく、開催都市東京に程近い私達の静岡県には6年後を前にして各国からのアスリートやその関係者の訪れで県内各地は多くの賑わいと盛り上がりを見せるでしょうが、その中であって私達競技団体も精一杯の心遣いと誠意ある取り組みを果たしたいものである。

ところで、年末に本県バドミントン界の現状と今後の展望について某スポーツライターと幾度か話す機会を得たのであるが、当協会も昭和24年の発足から数えて64年を経過するに至り、先人のご労苦や大会の開催、運営、また競技記録など一つ一つの歴史を紐解く中、その活動の持つ意義・役割など協会運営に携わる一員として改めて責任の重さを痛感した次第であります。

当協会は、その歴史上取り分け本県出身者による世界選手権優勝や全日本総合選手権優勝などの輝かしい競技歴が私達の誇りとなり普及・発展の礎となってきた経緯がある。

が、しかし残念ながらここ数年はそれに甘んずるが如く本県バドミントン界における明るく華々しい活躍は影を潜め全国上位入賞や世界へ向けての壁は思いのほか厚く押し掛かっている。

そんな状況の中、この東京五輪開催は私達にとって捲土重来、復活の第一歩と期すべき大きな意義を持つ。

私達団体は、言うまでもなく『スポーツ競技団体』であり紛れもない。その主たる目的の中にあって競技力向上は究極の使命であり、普及の原点でもある事を断じて忘れてはならないのであって、その一環として数年前より実施している指導者養成についてはジュニア指導者の関心や高まりもあって、今年度で有資格者数は130名を超えるなど全国でも上位県の内にある。

現実、これら有資格者におけるスポーツ諸科学に裏打ちされた指導体系は功を奏し、全国に名を連ねる小学生選手を毎年のように輩出する勢いを見せるなどこの段階での育成は極めて順調と言える。

しかし、この伸び盛りにあるゴールデンエイジ期の若きアスリート達が更に上達を目指す専門・競技トレーニング時期となるジュニアユース段階に入る過程に於いて、その受け皿となるべき活動場所や指導者などその一貫指導体制を取り巻く環境は必ずしもこれら選手の期待に沿うものではなく、現実問題として中学校段階で大会への参加もままならない状況下に置かれる選手や新たな活動の場を求め条件の見合う地域や県外にまでも活躍の場を移す選手など山積する課題は余りにも多く深刻である。

折しも、平成30年に開催予定の全国高校総体は東海ブロック地区合同開催となり競技種別はそれぞれ4県にまたがるのであるが、バドミントン競技は静岡県と決定した。

“All for player 全てはプレーヤーのために” これら喫緊の課題を無理難題と手を拱いてばかりはいられない。

年頭に当たり心新たにしつつ、本年も皆様の厚いご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

静岡新聞 掲載記事

特集 静岡の風
バドミントン 上



世界制覇貢献 逸材生む

終戦 2 年後の 1947 年(昭和 22 年)、新制の富士中が学校体育のモデル校に指定されたのを受け、体育主任を務めていた塩川甫(元県バドミントン協会会長)が女子体育の教材にバドミントンを取り入れた。ここから本県バドミントンの歴史が始まったと、同協会理事長の杉山敏充は県高体連 50 周年記念誌に記している。

50 年に第 1 回県選手権が開かれ、この年、富士、富士見、沼津東の 3 高校にバドミントン部が誕生。その後、中部、西部地区の高校にも波及、1 中学校に端を発した動きは県内に波及した。

国体は、公開競技だった 49 年の東京大会から参加、57 年 1 巡目静岡大会で掛橋良子(沼津西)、西村弘子、佐野禎子(ともに富士見)の高校女子が準優勝し、県勢初の全国大会上位入賞を記録した。

59 年の 2 巡目東京大会は高校女子が伊沢利子、志村セツ子、石原待子の富士見トリオで臨み、再び準優勝した。

61 年には初の全国チャンピオンが誕生した。高校総体に出場した望野政枝(富士見)で、女子シングルスで見事に金メダルを手にした。この年の国体秋田大会では高校女子が高木紀子、天野博江(ともに掛川西) 影山昭子(吉原)の布陣で三たび準優勝。高木と天野はプレーヤーとして成長を続け、5 年後には世界タイトルを獲得する。

66 年のユース杯で日本は初優勝した。ユース杯はバドミントン女子の国・地域別対抗戦で、日本は決勝で米国を退けた。高木と天野は軸として活躍、世界制覇に大きく貢献した。高木は 72 年のミュンヘン五輪にも参加し、公開競技ながらシングルスで金メダルに輝いた。

女子が気を吐く中で、男子は富士高勢が高校総体で奮闘した。58 年に三浦三作がシングルスで準優勝し、高校総体では男女を合わせ、初めて上位に進出した。62 年には斉藤正勝がシングルスで 3 位と健闘、さらに 67 年、笠井好美・笠井教行のペアがダブルスで準優勝している。

富士高ペアの活躍を最後に、県勢は全国上位の座から遠ざかった。だが、82 年の国体島根大会で成年女子が 3 位と、徐々に上位に駒を進めた。国体は 83 年の群馬大会で成年女子が 2 位、成年男子 3 位、90 年の福岡大会でも成年女子が 2 位に入った。いずれも日本楽器(現ヤマハ)など、企業組が存在感を示した結果だった。

(敬称略)(スポーツライター・加藤訓義)

(新聞掲載文)

BWF 世界シニア・バドミントン選手権大会 2013 (トルコ・アンカラ)

芝崎侑司様 70 歳複 金メダル

湯山浩子様 55 歳複 金メダル・55 歳混合銅メダル



県協会会長と湯山様



県リーグ連盟会長と湯山様



湯山様 金メダル

静岡新聞 掲載記事

特集 静岡の風
バドミントン 下



指導者育て 低迷打開へ

2003年(平成15年)3月、富士宮市でバドミントンの全国高校選抜大会が開かれ、地元の舞台上で星陵女子が躍動した。

星陵は2回戦から登場すると、旭川実(北海道)、淑徳巣鴨(東京)、聖ウルスラ学院(宮城)を連破して決勝進出、熊本中央(熊本)と対戦した。伝統校を相手にした一戦はダブルス二つを落とし、1-2の窮地に追い込まれた。しかし、残るシングルスでまず村松瑞穂がタイに持ち込み、最後は主将の金森裕子が確実にポイントを奪って3-2で逆転勝ち。本県に初の団体優勝をもたらした。

星陵の金森・村松ペアは、夏の高校総体ダブルスでも決勝に勝ち上がった。相手は団体優勝の聖ウルスラの平山・松村。第一セットを失ったが、粘りを発揮して2-1と逆転、県勢として42年前に望野政枝(富士見)がシングルスで制して以来の総体チャンピオンの座に就いた。

この年、2巡目静岡国体が開かれ、高校勢の選抜、総体の活躍もあって期待を集める中、競技別天皇杯(男女総合)で6位に食い込んだ。天皇杯入賞は13年ぶりだった。

ところが、03年を除けば、全国舞台上で上位に勝ち上がることができないのが県バドミントン界の現状である。県バドミントン協会前会長の上野忠と理事長の杉山敏充は、「指導者不足」を低迷の最大要因に挙げる。

現在、県内の高校でバドミントン部が活動しているのは60校で、部員総数は約2千人を数える。しかし、中学校は24校、約700人とどまっている。指導者不足は中学校が特に顕著であり、それが高校の半分にも満たない部活実態につながっている。

もともと競技熱の高かった東部だけでなく、中部、西部地区でも小学校生を対象にしたクラブが活動し、ジュニア層のレベルは高まっている。だが、中学校段階になると受け皿不足が目立ち、県外へ活動の場を求めるケースも生まれている。

取組やすいことから生涯スポーツとして普及し、バドミントン人口は増加傾向にある。しかし、競技スポーツとしての裾野は広がりを見せていない。

こうした状況をいかに打破するか。そのカギは指導者不足の解消に懸かっているのは間違いない。このため、県バドミントン協会は研修会の実施し、指導者の養成と質の向上に力を注いでいる。(敬称略)

(スポーツライター・加藤訓義)

(新聞掲載文)

部活紹介

県大会に向けて

私達、沼津中央高校バドミントン部は、現在男子6名、女子8名の計14名で活動しております。体育館やホールにて、切磋琢磨して練習に励んでいます。まだ実績はないですが、自分にスティックに日々の練習に励み、様々な高校と合同練習や練習試合をしてもらった結果、着々と力をつけることが出来ました。2年生は引退まで残すこととあわずかです。チーム一丸となり、県大会出場という目標を果たすために頑張ります。(文責 部長 伊藤純菜)

沼津中央高校バドミントン部
顧問 秋庭直輝



**島田樟誠バドミントン部 顧問
中田 昇**

島田樟誠高校バドミントン部の創部は今でははっきりしていませんが、静岡の中部に男子バドミントン部が4校しか無かったころからあったようです。現顧問の中田先生は2003年から顧問を続けています。現在の部員で中学校以前のバドミントン経験者はおらず、今年度の大会も個人ではベスト十六が最高です。平成22年度、23年度、24年度には経験者が入部し最高で地区三位、団体では県ベスト8まで行っています。普段の練習は外を走りアップの後、ストレッチ、決められたトレーニングそしてフットワークを1時間半かけてやります。その後はノック中心に練習をします。内容はスピード練習・技術練習・体力練習と目的に応じて練習内容を考えてやっています。(以下は部員の作文を載せます)

僕はバドミントン部に入り、とても難しくて大変なスポーツだと思いました。でも体力や筋力がつくので、頑張り甲斐があります。(I君)

僕にとっての高校生活におけるバドミントン部は思い出になるし将来働く時のための体力作りにもなり有意義なものだと思います。(A君)

僕の高校生活におけるバドミントン部は心身や体力を鍛える場であり、部内や他校との人間関係の交流の場でもあります。(N君)

高校でバドミントン部に入ってバドミントンがとても難しいということがわかりました。体力も中学の時よりも付いてメンタルもちょっと強くなりました。(N君)

高校生活におけるバドミントン部は一日一日の練習を大切に行い集中力や体を鍛えて自分を成長させる場だと思います。(K君)

私は2年半のバドミントン部を通して礼儀と仲間との絆を学ぶことができました。一人では強くなれないし、礼儀なくしては社会でうまく過ごしていけません。(S君)

バドミントンは最初にイメージしていたのと全然違って、とても難しく体力と技術が必要なスポーツだと思いました。(S君)



試合結果

平成 25 年度 東海総合バドミントン選手権大会

平成 25 年 9 月 14 日～15 日

愛知県刈谷市 ウイングアリーナ刈谷

男子ダブルス 1回戦	1-2	
山崎・細田(静岡)	0-2	北林・北林(愛知)
大野・尾崎(静岡)	2-1	金城・藤谷(岐阜)
栗・山下(静岡)	2-1	高田・高橋(岐阜)
栗下・鈴木(静岡)	0-2	川下・三好(愛知)
2回戦		
栗・山下(静岡)	0-2	武山・小林(愛知)
男子シングルス 2回戦		
大野裕菜(静岡)	2-0	石川直樹(岐阜)
栗佑貴(静岡)	2-0	松本岳(愛知)
山下幸司(静岡)	0-2	高田憲(愛知)
男子シングルス 3回戦		
大野裕菜(静岡)	2-1	栗佑貴(静岡)
準決勝		
大野裕菜(静岡)	0-2	黒田匠馬(岐阜)

平成 25 年度 全日本シニアバドミントン選手権大会

平成 25 年 11 月 15 日～18 日 愛媛県松山市

35 歳以上男子シングルス	
ベスト4	佐野智久
35 歳以上女子シングルス	
ベスト8	橋本裕美
35 歳以上男子ダブルス	
ベスト4	佐野智久・中澤健亮(茨城)
40 歳以上男子ダブルス	
ベスト8	櫻井基之・中村繁幸
40 歳以上混合ダブルス	
ベスト8	中村繁幸・三井栄子
55 歳以上男子ダブルス	
ベスト8	芹澤英彦・佐野明彦
55 歳以上女子ダブルス	
ベスト4	湯山浩子・太田清子
55 歳以上混合ダブルス	
ベスト8	芹澤英彦・湯山浩子
60 歳以上男子ダブルス	
ベスト8	大邑富三・増田英雄
65 歳以上女子シングルス	
ベスト8	山下由紀子

第98回静岡県教職員バドミントン選手権大会

於 富士勤労者体育センター 平成 25 年 11 月 23 日

	1位	所属
男子1・2部	大澤俊幸	科学技術高
ダブルス	吉原隆	県教委高校教育課
男子3部	宮原和臣	静岡大学
ダブルス	早村俊二	静岡大学
男子4部A	磯野礼三	三島高
ダブルス	日吉太郎	大岡南小
女子4部A	山本千江	長泉小
ダブルス	稲村恵	大岡南小
混合ダブルス	張盛開	静岡大学
2・3部	宮原和臣	静岡大学
混合ダブルス	野中万梨子	井川中
4・5部A	杉山大祐	井川中
混合ダブルス	芦澤正也	中央特支

第 44 回静岡県バドミントン選手権大会

平成 25 年 10 月 12.13.20 日

静岡大学体育館

男子 1 部	女子 1 部
1 静岡大学浜松A	1 静岡大学A
2 静岡県立大学A	2 浜松医科大学A
3 静岡大学A	3 静岡県立大学A
男子 2 部	女子 2 部
1 日本大学A	1 静岡県立大学B
2 静岡大学B	2 常葉大学B
3 東海大学海洋学部A	3 浜松医科大学B
男子 3 部	
1 日本大学B	
2 常葉大学B	
3 常葉大学浜松B	

第 118 回東海大学バドミントン選手権

11 月 25 日～11 月 30 日

天白スポーツセンター、稲永スポーツセンター

男子 2 部 静岡大学男子 2 位
1 部 2 部入れ替え戦 静岡大学 3-0 愛知学院大学
女子 2 部 静岡大学女子 2 位
1 部 2 部入れ替え戦 静岡大学 3-2 愛知学院大学

第 35 回東海学生新人バドミントン選手権

12 月 9 日～12 月 13 日

天白スポーツセンター、名東スポーツセンター

女子ダブルス
静岡大学 櫻井渡辺 4 位

平成二十五年度静岡県高等学校新人大会バドミントン競技

沼津市民体育館 平成 25 年 10 月 26 日

男子学校対抗		
準々決勝		
星陵	3-0	菫山
伊東	3-0	加藤学園
伊東商	3-0	科学技術
富士	3-1	沼津工
準決勝		
星陵	3-1	伊東
富士	3-1	伊東商
決勝		
星陵	3-0	富士
三位決定戦		
伊東商	3-2	伊東

1位～3位は東海大会に出場

沼津市民体育館 平成 25 年 10 月 27 日

女子学校対抗

女子学校対抗		
準々決勝		
星陵	3-0	富士宮北
常葉菊川	3-0	静岡北
藤枝西	3-1	伊東
御殿場西	3-2	科学技術
準決勝		
星陵	3-0	常葉菊川
藤枝西	3-2	御殿場西
決勝		
星陵	3-0	藤枝西
三位決定戦		
常葉菊川	3-2	御殿場西

1位～3位は東海大会に出場

静岡市長田体育館 平成 25 年 11 月 2 日

1年男子ダブルス

準決勝		
石井・淋(伊東商)	2-0	金山・田中(富士)
大内・坂東(富士)	2-1	福田・小池(富士東)
決勝		

石井・淋(伊東商) 2-0 大内・坂東(富士)

1年男子シングルス

準決勝		
淋貢葵(伊東商)	2-0	堀口練(静岡北)
石井凌(伊東商)	2-0	佐野和暉(御殿場西)
決勝		
石井凌(伊東商)	2-1	淋貢葵(伊東商)

2年男子ダブルス

準決勝

仁藤・米山(星陵) 2-1 田中・川島(富士)

田原・深澤(星陵) 2-0 瀬戸・及川(伊東)

決勝

仁藤・米山(星陵) 2-1 田原・深澤(星陵)

2年男子シングルス

準決勝

深澤浩弥(星陵) 2-1 米山莉句(星陵)

瀬戸海(伊東) 2-1 田原優作(星陵)

決勝

瀬戸海(伊東) 2-0 深澤浩弥(星陵)

1年女子ダブルス

準決勝

佐野公・佐野佳(富士宮北) 2-1 杉山・海野(磐田南)

佐藤・曾根(静岡大成) 2-1 守田・池谷(湖西)

決勝

佐野公・佐野佳(富士宮北) 2-0 佐藤・曾根(静岡大成)

1年女子シングルス

準決勝

飯塚海紗(沼津商) 2-0 守田歩加(湖西)

橋本まこ(静岡商) 2-0 佐野公香(富士宮北)

決勝

橋本まこ(静岡商) 2-0 飯塚海紗(沼津商)

2年女子ダブルス

準決勝

勝俣・山本(御殿場西) 2-0 鈴木・鈴木(星陵)

河合・山田(星陵) 2-0 増田・稲葉(伊東)

決勝

河合・山田(星陵) 2-1 勝俣・山本(御殿場西)

2年女子シングルス

準決勝

勝俣莉里香(御殿場西) 2-0 稲葉七海(星陵)

河合莉咲(星陵) 2-0 山田圭菜(星陵)

決勝

勝俣莉里香(御殿場西) 2-0 河合莉咲(星陵)

静岡県中学生新人大会

富士根南中学校体育館 平成 25 年 10 月 20 日

2年男子シングルス

準決勝

三好 翔(伊東南) 2-0 大内 海渡(星陵)

小野田 泰地(星陵) 2-0 鈴木 悠真(浜松北浜)

決勝

三好 翔 2-0 小野田 泰地

3位決定戦

鈴木 悠真 2-0 大内 海渡

2年男子ダブルス

準決勝

淋・荒井(伊東南) 2-0 稲葉・外木(星陵)

高嶋・稲葉(伊東南) 2-0 仁藤・中里(伊東南)

決勝

淋・荒井(伊東南) 2-1 高嶋・稲葉(伊東南)

3位決定戦

稲葉・外木(星陵) 2-0 仁藤・中里(伊東南)

1年新人男子シングルス

準決勝

佐藤 龍生(静岡大川) 2-0 高橋 克海(伊東南)

栗下 航大(静岡大川) 2-1 後藤 達哉(富士根南)

決勝

佐藤 龍生 2-0 栗下 航大

3位決定戦

後藤 達哉 2-1 高橋 克海

女子の部

富士フィルム体育館 平成 25 年 10 月 27 日

2年女子シングルス

準決勝

加藤 亜哉子(伊東南) 2-1 今井 沙耶(御殿場南)

高柳 美月(常葉菊川) 2-1 野田 彩夏(静岡蒲原)

決勝

加藤 亜哉子 2-1 高柳 美月

3位決定戦

野田 彩夏 2-0 今井 沙耶

2年女子ダブルス

準決勝

杉山・樽石(伊東南) 2-0 村田・三輪(藤枝高洲)

渡辺莉・渡辺茉(積志) 2-0 櫻井・大川(伊東門野)

決勝

渡辺莉・渡辺茉(積志) 2-0 杉山・樽石(伊東南)

3位決定戦

村田・三輪(藤枝高洲) 2-0 櫻井・大川(伊東門野)

1年新人女子シングルス

準決勝

大勝 明日香(星陵) 2-0 清水 あかり(清水小島)

今永 悠(静岡大川) 2-1 新井 綾乃(井之頭)

決勝

今永 悠 2-0 大勝 明日香

3位決定戦

新井 綾乃 2-0 清水 あかり



第 6 回静岡県小学生バドミントン大会

平成 25 年 9 月 14 日 沼津市民体育館

6年生男子シングルス	準決勝	
平岡(伊東ワールド)	2-1	土井(富士山)
竹田(富士山)	2-1	福田(SBC スクール)
3位決定戦		
福田(SBC スクール)	2-0	土井(富士山)
決勝		
平岡(伊東ワールド)	2-0	竹田(富士山)
6年生男子ダブルス	準決勝	
竹田・土井(富士山)	2-0	平岡・鈴木(伊東ワールド)
福田・三橋(SBC スクール)	2-0	三好・小川(伊東ワールド)
3位決定戦		
三好・小川(伊東ワールド)	2-1	平岡・鈴木(伊東ワールド)
決勝		
福田・三橋(SBC スクール)	2-1	竹田・土井(富士山)
5年生男子シングルス	準決勝	
三橋(SBC スクール)	2-0	海野(富士山)
高柳(大井川)	2-0	早川(SBC スクール)
3位決定戦		
早川(SBC スクール)	2-0	海野(富士山)
決勝		
三橋(SBC スクール)	2-0	高柳(大井川)
5年生男子ダブルス	準決勝	
藤原・清水(どんぶり)	2-0	渡辺・神尾(富士山)
海野・森(富士山)	2-0	影山・荒井(富士中央)
3位決定戦		
影山・荒井(富士中央)	2-0	渡辺・神尾(富士山)
決勝		
海野・森(富士山)	2-0	藤原・清水(どんぶり)
4年生男子シングルス	3年生男子シングルス	
1位 佐野(富士山)	1位 小澤(伊東ワールド)	
2位 横山(SBC スクール)	2位 辻(SBC スクール)	
3位 三浦(蒲原)	3位 松村(御殿場)	
4年生男子ダブルス	3年生男子ダブルス	
1位 佐野・渡辺(富士山)	1位 小澤・鶴岡(伊東ワールド)	
2位 鈴木・山口(富士中央)	2位 富田・北澤(広幡)	
3位 野鶴・松村(御殿場)	3位 丸山・青山(大井川)	

6年生女子シングルス

石上(大井川)

原(富士山)

3位決定戦

井上(広幡)

決勝

石上(大井川)

6年生女子ダブルス

石上・鈴木(大井川)

原・森(富士山)

3位決定戦

新田・勝又(御殿場)

決勝

石上・鈴木(大井川)

5年生女子シングルス

三好(伊東ワールド)

鈴木(広幡)

3位決定戦

内田(広幡)

決勝

三好(伊東ワールド)

5年生女子ダブルス

内田・谷村(広幡)

鈴木・深津(広幡)

3位決定戦

高橋・石黒(富士中央)

決勝

鈴木・深津(広幡)

4年生女子シングルス

1位 大塚(広幡)

2位 内田(広幡)

3位 鈴木(藤枝)

4年生女子ダブルス

1位 内田・大塚(広幡)

2位 中島・岩崎(広幡)

3位 鈴木・竹田(藤枝)

1・2年生男子シングルス

1位 勝又(富士山)

2位 鶴岡(伊東ワールド)

3位 佐々木(御殿場)

準決勝

八木(島田六合)

井上(広幡)

八木(島田六合)

原(富士山)

準決勝

橋口・渡辺(富士中央)

新田・勝又(御殿場)

橋口・渡辺(富士中央)

原・森(富士山)

準決勝

深津(広幡)

内田(広幡)

深津(広幡)

鈴木(広幡)

準決勝

高橋・石黒(富士中央)

三好・鈴木(伊東ワールド)

三好・鈴木(伊東ワールド)

内田・谷村(広幡)

3年生女子シングルス

1位 荒井(富士中央)

2位 平岡(伊東ワールド)

3位 廣瀬(大井川)

3年生女子ダブルス

1位 山下・仲丸(藤枝)

2位 廣瀬・村松(大井川)

3位 平岡・平岡(伊東ワールド)

1・2年生女子シングルス

1位 石井(伊東ワールド)

2位 藤浦(吉田)

3位 仲丸(藤枝)

— 広報委員会からのお願い —

原稿に関しまして原稿締切を、過ぎての入稿が目立っております、原稿締切の厳守をお願いいたします。

入稿方法は、従来の方法に加ヘメールにて受け付けております。下記の広報メールまでお願いいたします。(パソコンで入力しました原稿は、メールでの入稿をお願いいたします。)

「バドミントンしずおか」は、静岡県バドミントン協会ホームページにも掲載しておりますので、そちらもご覧ください。

静岡県バドミントン協会事務局

〒416-0909 静岡県富士市松岡 523-8

山本秀和

TEL&FAX0545-63-0711

E-mail sizuokakenbadky@hb.tp1.jp

静岡県バドミントン協会広報委員会

〒416-0909 静岡県富士市松岡 2423-11

大石恵司

TEL&FAX0545-61-6809

E-mail kenkouhou@mail.goo.ne.jp

